

アヤとアシヤンポン

作／亀山 空

アヤ……………小学六年生の女の子

アシヤンポン……………アフリカの男の子。

アヤ おやすみなさい、お母さん。(立ったまま布団に入って寝るマイム)

アシャンポン お母さん、おやすみ。うん、いい夢見てね。(ハケる)

目覚まし時計が鳴る。アヤ、目覚まし時計を止めて、よいしょ！ と飛び起きる。目覚まし時計は、芝居中ずっとこの場所にある。

アヤ 朝起きたら、顔を洗いましょう！

アヤ、何かブツブツ言いながら洗面所へ。蛇口をひねるが、

アヤ あれ？ 出ない。んー？ (蛇口を覗き込む)

アシャンポン (肩に手を置く) アヤ。

アヤ わっ！

アシャンポン わあっ。びっくりした。蛇口を捻っても水は出ないよ。行こう。(手を持って連れて行こうとする)

アヤ ちょ、ちょ、ちょ、ちょっと待って。えーっと、……………だれ。

アシャンポン ぼくはアシャンポン。君のともだち。

アヤ アシヤンポン？ そんな友だち、いませんけど。たぶん。

アシヤンポン たぶん？ ひどいなあ。まあいいさ。行こう。(行きかける)

アヤ (行かない)いくつて、どこに？

アシヤンポン 水を汲みに、水汲み場に行くんだろ？

アヤ 水ならサイアク、コンビニで買えるし。

アシヤンポン 何言ってるんだ！ いくよ！(アヤの手を引っ張る)

アヤ ちょ、まってよ！(足元のカバンを取る)

アシヤンポン、アヤを連れてはける

二人、すぐ現れる。アシヤンポンはバケツを持ち、アヤはカバンを背負っている。アヤ、しゃがみ込む。

アヤ どういうこと。コンビニも自販機もどこにもない……………！

アシヤンポン ほら、歩いて。

アヤ あとどのくらい？

アシヤンポン 一時間。(行こうとする)

アヤ (駄々をこねる)アシャンポン!

アシャンポン (歩き続けて去る)

アヤ アシャンポン! アシャンポン! (アシャンポン戻る。)まあま、座ってよ。話をしよう。わたし、アシャンポンが誰なのかなんにも知らないからさ。

アシャンポン (アヤのそばに来るが、立ったまま話をする)

アヤ アシャンポンってさ……珍しい名前だね。どこから来たの?

アシャンポン サハラ砂漠のずっと南の国。

アヤ サハラ砂漠。……って、アフリカ?

アシャンポン アフリカ。でも、アシャンポンは珍しい名前じゃない。

アヤ へえ。

アシャンポン ぼくにはアシャンポンという名前の知り合いが10人いる。

アヤ 10人!

アシャンポン でも、親友のアシャンポンは、4人。(4本指を立てる)

アヤ ふーん。

アシャンポン ……いや、3人。(三本にする)

アヤ (指で数えて)あれ……1人減ったな!

アシャンポン 3人の友だちのアシャンポンのうち、(一本を左手で握る)1人は、お腹が痛くなって

寝てる。

アヤ ええ。どうして？

アシャンポン (関係のない仕草をする)

アヤ 話題を変えよう。アシャンポンはさあ……どんな字でアシャンポンって書くの？
(立ち、手のひらを出す) 書いてみて。

アシャンポン 書けない。

アヤ どうして？

アシャンポン 学校に行っていないんだ。

アヤ えー！ どうして？

アシャンポン いこう、水を汲みに。

アヤ (腕をとってひき止める) まって。おしゃべりしよ？ もうちょっと。もうちょっとだから。

アシャンポン だめだ。日が暮れてしまう。日が暮れたら、命が危ない。水を汲みに行こう。

アヤ なんで今日に限って水汲みに行くんだよ！

アシャンポン 僕たちは毎日汲むんだ。

アヤ だからどうして？

アシャンポン (仕草をする)

アヤ さつきからわたしの質問に答えてくれてませんが。

アシャンポン ……………。

アヤ なんて黙ってんの？ 黙ってる人って苦手だなあ。（アシャンポンが答えるのを待つが）ほら黙る！ アシャンポンが喋らないと、わたしだけずっと喋ってる。わたしだけ…………一人で…………。なんか、さみしくなる…………。自分がアリみたいに小さくなって、遠くなってく気がして、恐くなる。（突然叫ぶ）わーーーーー！ 叫びたくなくなる！ 分かる？ この気持ち。

アシャンポン うん、分かるよ。

アヤ もう、知らない！（顔をおおう）

アシャンポン ごめんね。でも、君の気持ち、分かるよ。ぼくも、ぼくの夢の中で、誰かに語りかけてる。それで、寂しくなることもある。叫びたくなることもある。

アヤ （立つ。アシャンポンの顔を見つめる）アシャンポン泥だらけだね。（拭いてあげる。）アシャンポンの村ってさ。水が汚いんでしょ。それで、お腹が痛くなっちゃうから、水を汲みに行く。毎日。それで学校に行けないから、自分の名前が書けないんだ。

アシャンポン そうだよ。僕の住んでる村の水は、とても汚い。お腹が痛くなっちゃうから、水を汲みに行く。毎日。それで学校に行けないから、ぼくは自分の名前がかけない。水を汲むのは、女と子どもの仕事なんだ。

アヤ やっぱり。…………実はね。（鞆からペットボトルを出す）これ水。入ってたからあげる。今日は、これを持って帰って、学校に行きなよ。

アシャンポン アヤ。

アヤ それで、アシャンポンの字を覚えて帰ってきて。

アシャンポン うん、ありがとう。僕の国は、日本から水を買うお金はない。でも、これは友情の印に、もらっていくよ。

アヤ うん。友情。

アシャンポン アヤにお願いがある。君の友達に伝えて。アシャンポンっていう友だちが、この星のどこかにいるってこと。僕が語りかけてるのは。そういうことなんだ。

アヤ 分かった。(ハグする) アシャンポンは、この星のどこかにいるんだね。

アシャンポン ……じゃあ、水汲みに行こうか。

アヤ えええ、行くんですか？ 今お別れする流れだったでしょ！

アシャンポン いや、行くよ。あと一時間。(手を引いて、歩いていく。)

アヤ えええええええ！

楽しい太鼓のリズムが響く。アヤ、連れて行かれる。

アヤとアシャンポン、幸せは歩いてこないだから歩いていくんだねの歌を歌いながら、水汲み場に着き、水を汲むマイム。アシャンポン、アヤの頭の上に

水の入ったバケツを乗せる。

アシャンポン これ、絶対にこぼさないでね。大事だよ、大事。
アヤ 分かった。(重そう。)

二人、歩く。

二人 (歌う) 人生は、ワンツーワンツ

家に着く。

アヤ 着いたあ!

アシャンポン これを、タンクに入れます。

アヤ はい。(入れる)

アシャンポン 慎重に。こぼさないで。大事、大事。

アヤ 分かっています。

入れ終わった。

アシャンポン さあ、顔を洗おう。

アヤ アシャンポン、お先にどうぞ。

アシャンポン、顔を洗う。

アヤ はい、タオル。

アシャンポン、蛇口をひねって止めてから、顔を拭く。

アシャンポン アヤ、顔を洗って。

アヤ はあい。

アヤ、カバンをおろして、顔を洗うが、蛇口をひねらずに、タオルで顔を拭く。

アシャンポン アヤ！（太鼓止まる。水を止める）水は大事！ どういうつもり？

アヤ ごめん。

アシャンポン ごめんじゃ分からない。ぼく、なんにも分からなくなった。アヤは、ホントに友だち？
アヤ ウソ。友だちだよ！

目覚まし時計鳴り出す。

アシャンポン もう行かなきゃ。(行こうとする)

アヤ アシャンポン！(モジモジ)あれ、体が動かない。

アシャンポン 忘れないで。アシャンポンっていう友だちが、この星のどこかにいること。忘れないで！

アヤ 忘れない！

アシャンポン なに？(耳に手を当てる)

アヤ 忘れない！

アシャンポン え？(耳に手を当てたまま去る)

アヤ 忘れないよ！(目覚まし時計を止める。)はあ、はあ、はあ……あれ？わたし、大事な夢見てた。いや忘れちゃだめでしょ。忘れちゃだめなやつ。なんだっけ？あれ？(と言いながら洗面所に向かう)

アヤ、蛇口をひねる。顔を洗う。タオルで顔をふこうとして、「あつ。」と慌てて蛇口をひねる。

アヤ

（思い出してくる）…………アシャンポンだ！（徐々に楽しい太鼓のリズムが、再び聴こえてくる。）アシャンポンアシャンポンアシャンポン……………（足踏みをする）お母さん！ お母さん！ あのね、すごい夢見たの！ アシャンポンがアフリカからやって来た！（去りながら）アシャンポンが、アシャンポンで、アシャンポンなの！アシャンポン……………

太鼓の音、高まっていく。